

インド太平洋における 日本の地経学戦略

南カリフォルニア大学国際関係学部教授 片田さおり

1818 Society Japan Chapter

オンライン報告

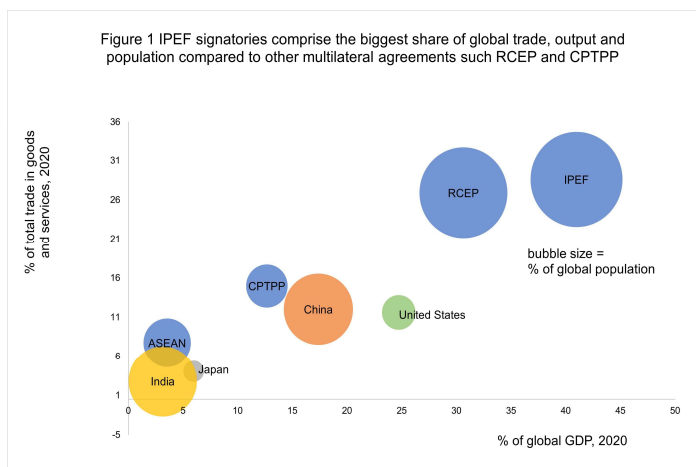
2023年4月11日 20:00

日本のインド太平洋戦略

日本の地経学戦略にとってのインド太平洋

- 中国と競争しながら協力する場 (Hosoya 2021)
- 中国に対抗し、日本の主導権の下、自由主義の経済秩序を維持・促進 (Koga 2020; Satake & Sahashi 2021)
- コアリション (スミス 2021) 及び集団経済安全保障 (寺田 & 大崎 2022) を構築する場
- **地域の国際政治経済環境**
- 米中対立: ディカプリング、経済安全保障
- 両大国対立下の日本の位置づけ
- メガ自由貿易協定を始めとする多様な経済イニシアティブ

インド太平洋の位置づけ



Source: Sherilyn Raga, ODI (2022)

<https://odi.org/en/insights/how-southeast-asia-will-benefit-from-the-indo-pacific-economic-framework/>

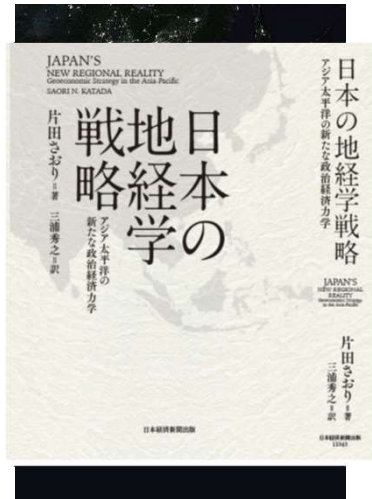
地経学

地経学とは

- 冷戦後、「対立の論理を通商の法則で分析」(Luttwak 1990)
- エコノミック・ステートクラフト (Baldwin 1985/2020): 金融 (Armijo & Katada 2015) 通貨 (Kirshner 1997; Cohen 2018)
- 「戦争の代替手段」(Blackwill & Harris 2016)
- フィンランド・スクール: 地理的に定義された経済相互依存や連結性が経済的手段と軍事的手段の代替を可能にする (寺田・大崎 2022; Mattlin & Wigell 2016; Vilma 2018)
- 経済相互依存の武器化 (Farrell & Newman 2019) と経済制裁 (Drezner 1999)
- 国際ルールと秩序をめぐる戦場 (船橋 2020)

→ 国家(政府)と企業の経済行動との関係が重要

日本の地経学戦略の変遷



1990年代よりの四半世紀

- 二国間からミニラテラル(地域主義)へ
- インフォーマルからフォーマルへ
- 新重商主義からリベラルな国際基準の追求へ

→ 国家主導のリベラルな地域戦略

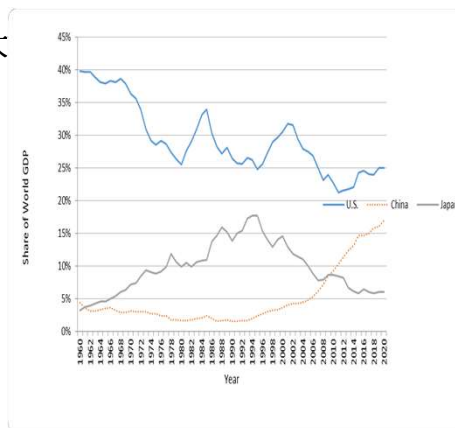
日本語版日経新聞出版より
2022年6月出版(三浦秀之訳)

米中経済対立と地経学戦略

中国の台頭・米国の後退

世界・地域経済への難問

- 中国経済の対外影響力増大
- 経済システム・イデオロギーの対立(ルール vs パワー)
- 経済相互依存の武器化
- 米国の経済安全保障・保護主義強化
- 地域経済制度の重層化と複雑化
- 自由主義経済体制 やシーレーンの安全確保などを含む国際公共財の提供不足



世界に占めるGDPの割合: 米・中・日
出典: 世界銀行

8

地経学戦略上の米中の対立

- 米国による世界市場開放、経済安全保障とルールに則った経済秩序の促進: TPP, デジタル貿易、知的財産権の保護, および国営ビジネスや汚職に対する規制
- 中国の国家資本主義、経済の武器化、新重商主義: BRI, 巨大な資金力の利用、市場操作、国営企業の優位性

2020年代の国際情勢

- コロナ禍の経済混乱とナショナリズムの台頭：
財政刺激政策とインフレ、交流・流通の遮断
- デカップリングとサプライチェーンの脆弱性：
国内回帰とフレンドショールング
- ウクライナ戦争と対ロシア経済制裁：
エネルギー及び食料危機
- 特に先進国諸国による経済安全保障政策の
強化と経済の保護主義化

米国バイデン政権（2021－現在）

国内政治と経済安全保障

- 「インフラ投資と雇用対策法」と「インフレ削減法」
- 「アメリカ製品購入法 (Buy America)」と国内回帰政策
- 「CHIPSおよび科学法」とCHIP-4同盟の形成
- 輸出・投資管理の強化、フレンドショールング

インド太平洋経済枠組み (IPEF)

- 4分野：デジタル等の貿易強化、サプライチェーン強靱化、グリーンエコノミーとインフラ、及び税制・反汚職を含む公正な経済
- 市場開放はなし、TPPには戻らず、議会の採択も避ける

2024年の大統領選挙をにらんでこれからの方向性

- ねじれの議会、保護主義の強化、対中デカップリング政策

習近平統治下の中国(2013年一現在)

国内国際双循環経済 (Dual Circulation economy)

- 2020年5月、中国共産党中央政治局常務委員会からの提示
- 第14次5か年(2021～2025)における新しい発展戦略
- 産業構造の高度化とイノベーション、グリーン経済の発展

RCEP とCPTPP

- 他国(米・日・韓)のサプライチェーン国内回帰に対応
- 対覇権国コアリション戦略と国内経済改革の梃子として

インフラ投資

- 「一帯一路」から「グローバル開発構想」へ
- 債務問題についてG20などでの交渉

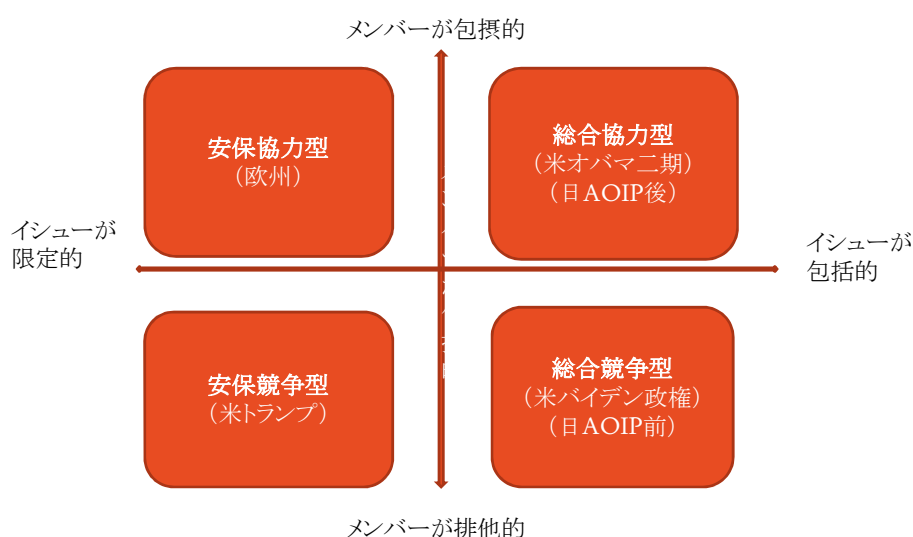
日本のインド太平洋地経学戦略

「インド太平洋」における経済構想

「自由で開かれたインド太平洋」戦略・構想・概念の変遷

- 2002年: 拡大東アジア (2005年: 東アジアサミット)
- 2004年: インドネシア沖津波への対応
- 2007年: 安倍首相インドでの演説
- 2016年: 日本政府TICADでの「FOIP」発表
- 2019年: ブルー・ドット・ネットワーク設立
- 2019年: ASEANアウトルック(AOIP)採択
- 2021年: サプライチェーン強靱化イニシアチブ採択

インド太平洋概念の類型化 (中村2019)



インド太平洋における日本の地経学戦略

地域貿易・経済協定

- CPTPP: 英加盟。中・台他の加入申請、米は加入の見込みなし
- RCEP: インド抜きで15か国で2022年1月に発効
- インド太平洋経済枠組み (IPEF) 構築への協力

サプライチェーン

- サプライチェーン強靱化イニシアティブ (SCRI): 日印豪
- 日米協調、CoReパートナーシップ

インフラ投資

- 質の高いインフラパートナーシップ (PQI) 及びG20原則
- 「インフラと投資のためのグローバルパートナーシップ (PGII)」: G7からの支持、ブルードットネットワークとOECD によるイニシアティブ

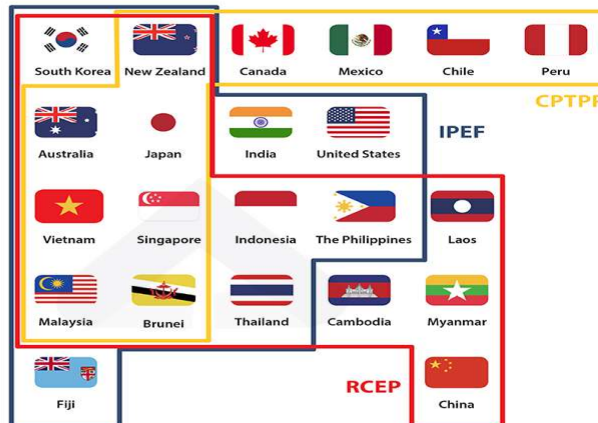
IPEF vs Other Major Asia-Pacific Strategic and Trade Deals

US Treaty Partner¹

Quadrilateral Security Dialogue² (Quad)

Association of Southeast Asian Nations (ASEAN)

Other



1. Treaty Partner refers to countries that hold significant defense and/or free trade agreements with the U.S., including:

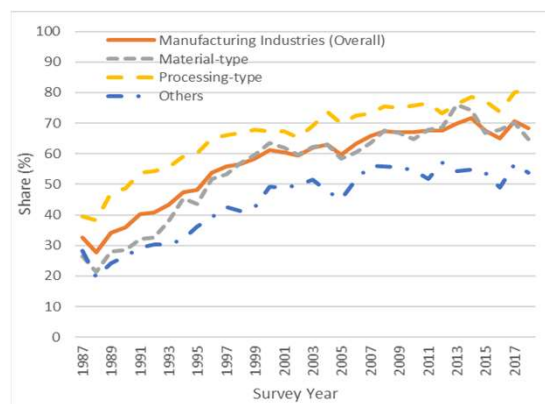
- Mutual Defense Treaty between the United States and the Republic of Korea; Free Trade Agreement between the United States of America and the Republic of Korea (KORUS FTA);
- Australia, New Zealand, and United States Security Treaty (ANZUS Treaty);
- Agreement between the United States of America, the United Mexican States, and Canada (USMCA);
- United States-Chile Free Trade Agreement;
- United States-Peru Trade Promotion Agreement.

2. Australia and Japan have been listed as Quad partners but also hold significant defense and/or free trade agreements with the U.S.

Graphic © Asia Briefing Ltd.

17

日本企業の海外における生産比率

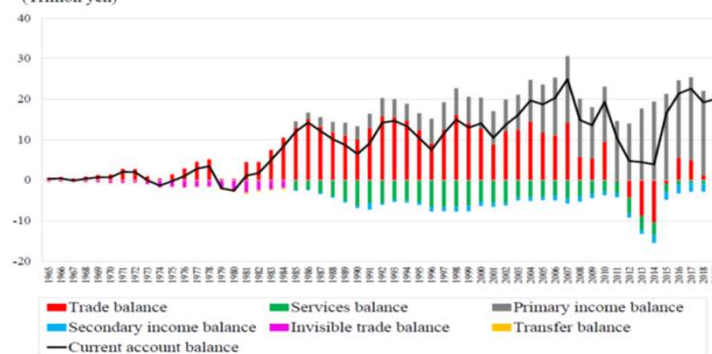


出典:内閣府

18

貿易大国から投資大国へ

Figure II-2-3-16 Breakdown of current account balance
(Trillion yen)



Notes: The primary income balance represents interest and dividends arising from foreign financial receivables and debts.

出典: 経済産業省 2020年通商白書

日本の地経学戦略の新側面

岸田首相の政策

- ・「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」のための新たなプラン（2023年3月20日発表）
- ・「自由」、「開放性」、「多様性」、「包摂性」、「法の支配」の尊重と国際公共財の確保
 - (1)「平和の原則と繁栄のルール」
 - (2)「インド太平洋流の課題対処」
 - (3)「多層的な連結性」
 - (4)「海」から「空」へ拡がる安全保障・安全利用の取組
- ・5月にはG7広島サミットの議長国として

今後の課題

インド太平洋に対する各国の関心と日本への期待

- ・国際経済ルールの形成と施行
- ・アジア地域のリーダーとしての役割

経済安全保障戦略と経済相互依存の両立

- ・ディカプリングとデリスキング
- ・包括性の追及と「仲間づくり」: CPTPPの中国・台湾の加盟申請問題、フレンドショ어링やIPEFなど
- ・Global Southとの関係と、質の高いインフラ投資と債務持続性

参考文献 I

英語文献

- Armijo, Leslie Elliott, and Saori N. Katada. "Theorizing the financial statecraft of emerging powers." *New Political Economy* 20.1 (2015): 42-62.
- Blackwill, Robert D., Jennifer Harris, and Jennifer M. Harris. *War by other means*. Harvard University Press, 2016.
- Baldwin, David A. *Economic Statecraft: New Edition*. Princeton University Press, 1985/2020.
- Cannon, Brendon, and Ash Rossiter. "The 'Indo-Pacific': Regional Dynamics in the 21st Century's New Geopolitical Center of Gravity." *Rising Powers Quarterly* 3.2 (2018): 7-17.
- Cohen, Benjamin J. *Currency Statecraft*. University of Chicago Press, 2018.
- Drezner, Daniel W. *The Sanctions Paradox: Economic Statecraft and International Relations*. Cambridge University Press, 1999.
- Farrell, Henry, and Abraham L. Newman. "Weaponized interdependence: How global economic networks shape state coercion." *International Security* 44.1 (2019): 42-79.
- Hosoya, Yuichi "A Certain Kind of Grand Strategy: Japan's Free and Open Indo-Pacific Vision and the US-Japan Relations," presented at Kissinger Center for Global Affairs, Johns Hopkins, SAIS, March 24, 2021.
- Koga, Kei. "Japan's 'Indo-Pacific' question: countering China or shaping a new regional order?." *International Affairs* 96.1 (2020): 49-73.
- Kirschner, Jonathan. *Currency and Coercion*. Princeton University Press, 1995. Satake, Tomohiko, and Ryo Sahashi. "The rise of China and Japan's 'vision' for free and open Indo-Pacific." *Journal of Contemporary China* 30.127 (2021): 18-35.

参考文献 II

- Luttwak, Edward N. "From geopolitics to geo-economics: Logic of conflict, grammar of commerce." *The national interest* 20 (1990): 17-23.
- Mattlin, Mikael, and Mikael Wigell. "Goeconomics in the context of restive regional powers." *Asia Europe Journal* 14.2 (2016): 125-134.
- Vihma, Antto (2018) "Goeconomic Analysis and the Limits of Critical Geopolitics: A New Engagement with Edward Luttwak, *Geopolitics*, 23:1, 1-21

日本語文献

- スミス、シーラ「バイデン政権：インド太平洋地域におけるコアリション・アプローチ」『国際問題』No. 701 (2021年6月)41-52
- 寺田貴・大崎佑馬「米中覇権競争とインド太平洋地経学 (Part 1: 地理の価値と戦略性)」国際フォーラムコメンタリー2022年3月7日
- 中村長史「多義的な「インド太平洋」の功罪——政治学的観点から」『海幹校戦略研究』9-2: 20-37. 2019
- 船橋洋一『地経学とは何か』文春新書1251、2020